

初年次教育の評価：プログラムとしての評価， 学生をどう評価するのか

課題研究担当理事 濱名 篤
将来構想担当理事 山田礼子

課題研究委員会と将来構想委員会は、今大会から3年間のスパンで中期計画を立て、段階的に課題研究シンポジウムを開催する。研究の大テーマは「初年次教育の評価とは何か」である。

1年目の今大会では、初年次教育の類型をいくつかに分類し、「学生個人の達成」と「教育プログラム」という視点からそれぞれの類型についての評価をおこなう。

類型の分類として①大学適応型(関西国際大学, 田中亜裕子会員), ②学習スキル重視型(四国大学・短期大学部, 谷川裕稔会員), ③研究基礎重視型(九州大学, 川島啓二会員)の三つを想定し、事例に基づく報告を踏まえて議論を深めたい。

今後の研究計画としては、今大会終了後にディプロマシーポリシー(DP), カリキュラムポリシー(CP), アドミッションポリシー(AP)における初年次教育の位置づけに関する会員調査を実施する。また2年目(2017年第10回大会:中部大学)には、DP・CP・APとの関係から、初年次教育がプログラムとしてどのようにそれぞれに位置づけられるのか、また成果の測り方はどのような形が望ましいのか、といったような視点から議論する予定である。最終年度については2年目の到達点を踏まえて検討することとしたい。